
ふたり

ピストン源次郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ふたり

【Nコード】

N3185P

【作者名】

ピストン源次郎

【あらすじ】

これによりヨーロッパ戦線は事実上終結しました。

「すまん。ゆるしてくれ」

「何をおっしゃるの、あなた」

「けっきょく私は、君に何一つ与えることが出来なかったよう
だ」

「あなたを与えてくださったばかりじゃないの、昨日」

「まさか君が、結婚してくれるとは思わなかった。こんな私と」

「私にはそれで十分。あなたがやっと一人の男性に戻ってくれ
たんですもの」

「・・・・」

「死に怯える、ありきたりの平凡な男性に」

「ありきたりの平凡な男性か・・・」

男は自嘲気味に唇をゆがめた。

「それでも私は、最後まで君を抱いてやれなかった」

「そんなこと・・・」

女は少し笑ったようだった。

男は一粒の丸薬を取り出して、女に手渡した。

「これが何か、分かるね？」

それにじつと目を落としてから、女はこくりと頷いた。

「私に、先にゆけとおっしゃるのね？」

「君には・・・君にだけは見せたくないんだ。私の『うそ！』」

ぴしゃりと女はさえぎった。

「自分以外、あなたは何も信じない。昔も今も。たった一人、あなたのお側に残ったこの妻ですら・・・」

男は、女の視線から目をそらすように、ぼんやり上を眺めていた。微かな振動と共に、天井からはらはら舞い落ちる埃。砲撃は、もうすぐ近くまで迫っているようだ。

「かわいそうな人」

「・・・」

「それでも、私の愛しい人」

そう言うてにつこり微笑むと、女は白い丸薬を飲み下した。

数分後。

床に横たわった女が動かなくなるのを見届けてから、男はおもむろに拳銃を取り出した。

そして、銃口を口にほうばり、目を閉じて無造作にトリガーを引いた。

1945年四月三十日午後三時十五分。

アドルフ・ヒトラー、妻エヴァ（旧姓ブラウン）と共に廃墟と化したベルリンの総統官邸地下壕において自殺。

その後、側近の手で焼却処分され、ソ連軍により発見された二人の遺体は男女の見分けもつかないほどに真っ黒であったという。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3185p/>

ふたり

2010年12月5日17時31分発行